江戸雅夫さん
職業：（有）江戸薬局
所属：フロンティアクラブ代表
市内の各商店街からの有志で構成し、商店街活性化に向けて取り組んでいる。

土田悦也さん
職業：（有）オプトメガネ
所属：留萌商店街振興組合連合会青年部「商人塾」代表
「個店繁栄＝地域発展」を旨として商店街の活性化を研究実践していく。

からの留萌を考えるいいきっかけになりました。

市長　留萌の歴史から未来像まで

21世紀の留萌の夢は

室本　フェリー就航が大きなテーマですね。フェリーによって背後圏、道北圏の物資が運ばれ、ビジネスチャンスが生まれる。岩内町も、フェリーによってポートセールスが成功し、企業が進出してきています。若年層の雇用の場も出来てきた。留萌には高校を卒業しても就職の場も学ぶ場もありません。規模は小さくても留萌の特色を持った専門学校があれば、高校を卒業した人の受け皿になります。

土田　今、かなり広い範囲で商店街を構成していますが、コンパクトで、スモールな商店街、行政も、留萌市そのものもスモール、コンパクト。

郊外店対策では、中心商店街を狭い範囲でモデル地区にして、「広く、浅く」より、きちんと徹底、集中して、そこから街並みを広げていくかシステムができないかと思っています。

フェリーについては未知数が多い。それによって何をもたらして、どうなっていくかという基本的な話し合いをもっと深めなければ。

江戸　商業人はフェリー就航と同時に何をしたらいいのかを考えるべきです。まちの顔である商店街は今の状況で人が集まるのか。フェリー就航と同時に、まちの核を作り、フェリーで来たお客さんの受け皿的役割を果たすべき。莫大な投資に対して効果が上がるのか、できあがった港をどう活用するのか、各市民が考えていく必要がある。我々としては、商店街を核としたまちづくり。特に副港界隈、余暇公園、商店街、港の連動。住んでいる人には「いいまち」、地方から来た人には「一度住んでみたい」と言われるように。

笹川　留萌はずっと港にお金をつぎ込んできましたが、主婦の感覚では利益が見えません。新聞では苫小牧、小樽、室蘭などが激しい競争をしています。留萌はそこに入っていけるのかという心配が先にたちます。

マイナス12m岸壁の整備で思うのは、離島観光。今年は深川・留萌にSLも走ります。SLは留萌駅までなのでJRと連携して、フェリーで離島観光ができないかな。以前、まちなみ景観のセミナーで「船から見えるまちなみも大切」という話を聞きました。船から留萌を見て「きれいだね」といわれるようなまちができたらいい。

市長　まちは絵を描くキャンバスと同じ。留萌のまちにどんな絵を描くか。一人ひとりの夢を大きく、ひとつにしていきたい。それぞれの団体の中でも議論して、具体的な提案が欲しいですね。

フェリーについては、留萌の港を活かさないと道北の経済の活性化はないと思います。道北は、他の地域（港）まで遠く、ハンディがありました。留萌港は、そのハンディを改善する役割を果たす必要があります。

商店街は、消費者あってのもの。消費者にとって魅力的な商店街にしなければね。

笹川　わたしは、車の運転ができないので、歩いていけるまちの中の店を利用します。商店街の人にはもっと頑張って欲しい。魅力のあるまち、散歩やウインドショッピングしていても気持ちのいい、楽しいまちなみづくりに期待したい。

室本直俊さん
職業：（有）室本萬翠園
所属：（社）留萌青年会議所理事長（平成11年度）
「明るい豊かな社会づくり」を目指し、次代の担い手たる責任感を持って行動する。

笹川敏子さん
職業：主婦
所属：萌の会代表
牛乳などの紙パックを回収し、それを資本に樹木の苗を購入し、市内の緑化に取り組んでいる。主婦７人で平成２年に設立し、女性の視点によるまちづくりを目指す。

高齢社会への取り組み

室本　高齢人口が二〇〇〇年を過ぎると20％を超えるという予測もあり、これからは、お年寄りの生活に目を向けるべきです。介護保険も負担、サービスなどのシステムが今後どうなっていくか、高齢者が増えると若い人の負担が増えていく、そこをどうクリアするのか。

江戸　今後は、まさに高齢社会になっていく。お年寄りに聞くと、歩いていける範囲で身の回りの物を揃えたいという考えが強い。車の免許は持っていても、土日は車で孫と郊外に買い物に行く、でも平日は車で遠くまで行こうとは思わない。だから、住んでるまちの中にお年寄りが集える施設、まちの中の利便性が高まる施設があれば嬉しいというのが、計画を作る前にアンケートを取った結果でした。子供たちのためと同時にお年寄りが「いいまちだ」って言えるためには何をすべきか。

市長　高齢になっても、世話を受ける立場の人もいれば、社会に関わりながら積極的に活動したい人もいる。その違いに応じた暮らし方ができるようにしなければなりません。これからは高齢者も元気なうちは頑張ってもらうのが大切。子供や若者が減っても元気なお年寄りは、みんなで頑張れば必ずしも悲観ばかりする必要はないんじゃないですか。

介護保険は、いよいよ来年4月からスタートしますが、この1年でいろいろ準備を進めることにしています。施設、ホームヘルパーなど多くの市民の力が必要ですが、それぞれの分野の人々にご協力をお願いしたいと思います。

少子化については「エンゼルプラン」を平成11年度中に作って、子供、お年寄りにも「留萌は素晴らしい」と言われるようにしたいですね。

平成11年はどんな年

市長　今年の抱負はいかがですか。

土田　今までの発想がターニングポイントになっていく年。空店舗対策でも、後継者の問題もあるが、家屋の傷み具合を見ると、むしろきれいな更地の方がいい場合もあります。有効なスペースとして使えるし、換地するときにでも新陳代謝しやすい。

高齢者の面では、お年寄りは、大型店で自分の欲しいものを買えない場合がある。当然、何をどのくらい欲しいのかは小売店でないと対応できないのだから、商売の基本に戻ればきっと活路があると思います。

高齢者が退職して札幌近郊に出ていく。若者を引き留めると共に、お年寄りを引き留める必要があります。不安なく留萌にいられる住環境、生活環境を作る必要があると思います。

市長　具体的に何が問題だと思いますか。

土田　一人で暮らしていても、買い物ができるか、病気になったときどうするかなどの不安。冬の除雪の心配。地域コミュニティーの中で精神的ネットワークがあるかどうか。

市長　お年寄りはやはり長年住みなれたところに住みたいんだと思います。人間関係もあるし。冬の除雪は本当にたいへんだと思います。そのため戸建てではなく、高齢者向けの集合住宅も考えられる。